

第96回長野市都市計画審議会 意見一覧表

○日時 令和8年5月26日（火）14時から

○内容 立地適正化計画について、検討状況を都市計画審議会へ報告し、ご意見やご指摘をいただきました。

計画制度と現行計画の概要、現行計画改定以降の変化を説明したうえで、今回の改定の方向性、各誘導区域と誘導施設の検討案を報告しました。

分類	都市計画審議会での発言等		対応方針
	ご意見・ご指摘	事務局等の回答	
居住誘導区域の設定基準について	○次期計画の重点的な居住誘導区域の基準である「1 日片道 30 本以上のバス路線上のバス停 300m圏域」について、国の基準などで定められているのか。1 日片道 30 本以上のバス停は、市内にほとんどないように感じる。	○1 日片道 30 本というサービス水準については、国が作成している立地適正化計画の手引きの中で、居住誘導区域を設定する際の目安として示されている。市内では、長野駅と松代地区を結ぶ県道沿いの路線や、長野駅と上松や浅川方面を結ぶ路線がある。 300mというのは、徒歩5分圏内でアクセス可能な立地という考え方である。 ○バス路線の維持に非常に苦戦をしているところであるが、一定以上のサービス水準を保つために、できるだけ居住誘導区域内に人口を集約化していくことによって、コンパクト・プラス・ネットワークの形成を促すという意図である。	➡左記回答のとおりです。
土砂災害ハザード内の居住誘導区域について	○安茂里駅の北側など、居住誘導区域内の土砂災害リスクがある場所がある。実際にその場所に行くと危ないと感じるが、このような箇所は今後どうしていくのか。 ○安茂里駅まで近く、長野駅へのアクセス性も良い便利な場所である。危険性は理解しつつ、承知のうえで住んでいるという認識で、あとは防災対策でカバーする考え方でよろしいか。	○この地域は今まで居住されてきた経緯もあり、すぐに居住誘導区域を除外するってことは難しいと考えている。居住誘導区域の中に残存するリスクに対しては、防災指針にて、今後も防災系のハード整備を着実に進捗させること、併せて、ソフト面では避難訓練の実施や、ハザードマップを活用した防災意識の向上などの取組を進めていく必要があると考えている。 ○そうである。	➡左記回答のとおりです。

分類	都市計画審議会での発言等		対応方針
	ご意見・ご指摘	事務局等の回答	
居住誘導のインセンティブについて	○立地適正化計画という計画自体は、国から計画を立てるように指示があり、長野市独自の計画ではないと思うが、建築の分野の仕事しているため、割と具体的な話を伺いたい。 居住誘導について、誘導するためのインセンティブの強化を図るとの説明があったが、現時点で具体的にどのようなことを検討しているか。 ○今後も行政サービスを維持するためには、拠点を絞ることが前提になるので、コンパクトシティという方向性は良いと思うが、中山間地域にも非常に魅力を感じる。このような地域の今後の方向性はどうなるのか。	○居住誘導区域を設定しただけでは、あまり意味がなく、有効な誘導施策を展開する必要があるという理由から、インセンティブの強化が必要だと考えている。 一方で、誘導施策は、市民に対する影響が大きいことはもちろんのこと、施策を設計するには関係部局・関係機関との丁寧な調整が必要であり、一朝一夕にはいかない。今回の計画改定では、少なくとも今後、具体的な施策を検討していくという方向性を掲げたいと考えている。 計画は作って終わりではなく、継続的に見直ししながらブラッシュアップしていくことが重要であるため、改定後も含めて、今後継続的に検討していくことが大切である。 ○街中と中山間地域が近く、色々な暮らしができることが長野市の魅力の 1 つである。それを今後も守り、次世代に繋いでいくためには、これまで育んできた各拠点を維持していくことが必要だと考える。中山間地域には生活中心地があり、その場所ならではの暮らしの魅力があるため、引き続き維持していきたいと考えている。	
地域別懇談会について	○都市計画マスタープランは、住民合意に基づく計画であるべきため、地域別懇談会を行い、細やかに住民の意見を集めていることは、素晴らしいことだと思う。 懇談会の参加人数を見ると、例えば、第 5 地区であると 7 名と少ないと感じる。時間帯やオンライン参加を併用するなど、工夫もできたと思う。人数が少ないから良くないわけではないが、代表性が担保できている、年齢層が多様である、或いは職業とか性別が多様であるなど多様性が担保できていれば人数がある程度少なくても、問題ないと思う。そのあたりは、どうだったか伺いたい。	○懇談会の相手先の住民自治協議会は、主に地区の役員から構成される組織になる。各地区で会議が月 1 回程度開催されており、そこに伺って意見交換した。そのため、参加人数は、各地区の住民自治協議会の役員の人数である。開催の時間帯については、地区によって昼間行われている地区もあれば、現役で仕事をされている役員が多い地区は夜に開催しており、地区により様々であった。 会議の参加人数が少ないと意見の偏りもあるのではないかと指摘もあったが、不特定多数の方の意見を聞くということに関しては、昨年度に若者アンケートと子育て世代アンケートを実施しており、これらの結果も活用しながら検討を進めていきたい。	➡左記回答のとおりです。

分類	都市計画審議会での発言等		対応方針
	ご意見・ご指摘	事務局等の回答	
地域別懇談会について	○地域別懇談会の意見について、テキストマイニングで図示されていて素晴らしいと思う。どのようにこの分析したのか教えてほしい。 懇談会での発言をデジタルデータ化し、それで並べた形なのか。或いは参加者に書いてもらったものから作成したのかなど、様々なやり方があるとは思いますが、どのように分析したのか手法を知りたい。 ○テキストマイニングは、どういう形で目的を設定するかが重要だと思う。懇談会でどのような質問をして、返ってきた意見であるか知りたい。 ○テキストマイニングは、解釈する側の論理でまとめてしまう恐れがある。また、単語のみを捉えると違う文脈で使用されていることを見落としてしまう可能性もあるため、使い方に少し気をつけたほうがいいと感じた。	○テキストマイニングについては、事務局で地域別懇談会をすべて録音し、議事録に起こしたものを、AI に読み込ませ、出現数の多い単語を拾い、同じ文脈の中で回数が多く出てきている単語を線でつなぐ形で集計をしている。 ○懇談会では、あらかじめ設定した質問に対しての回答ではなく、1 人ずつご意見を伺った地区や、気づいたことを挙手していただいた地区など、伺った会議の様子に応じてお話しした。 懇談会の始めに現行計画の地域別構想について説明し、それと日頃の地域活動やまちづくりをしている中で課題に思っていることや感じていること、10 年前には無かった課題などについて、意見交換した。	➡左記回答のとおりです。

分類	都市計画審議会での発言等		対応方針
	ご意見・ご指摘	事務局等の回答	
産業立地ビジョンについて	○現在、経済産業振興部で、長野市産業立地ビジョンという、インパクトのあるビジョンを掲げている。 20ヘクタール規模の経済活動をする地域を、5年以内に3ヶ所、長野市内に設定するという計画があるが、地域別懇談会において議論をする前提として、地域に知らせているか。懇談会の報告資料にはその辺の意見が出ていないので感じた。 産業立地ビジョンはインパクトがあり、まちづくり自体が大きく変わってくると認識している。同時並行で計画が動いているので、なかなか先が見通せない部分もあると思うが。大事な計画だと思うので、その辺の意見が、都市計画マスタープランや立地適正化計画にも反映されるべきと思うが、どのように考えているのか教えてほしい。	○資料には掲載していないが、意見交換の中で、産業立地ビジョンに関心を持つ意見もあった。市の政策として産業用地に限って整備を進めていく方針であるので、都市計画マスタープランにも書き込んでいくことを考えている。 ○産業立地ビジョンは、長野市の産業基盤をさらに強いものにしたいという趣旨で策定している。都市計画に関連する分野は多岐にわたるが、産業立地という土地利用のある分野についての将来的なビジョンが産業立地ビジョンである。我々が策定している都市計画マスタープランをもとに、産業系の土地利用についての計画を作成している。都市計画マスタープランと齟齬のない形にしたうえで、経済産業振興部で地元・関係機関と調整し、その内容を都市計画マスタープランに反映させていくことも考えている。2つの計画の連携を密にしながら計画を策定していく。	➡左記回答のとおりです。